へ13
3811
29

へ13
8811
29

嘉永六年
癸丑新版

種員作
國麈画

廿三編上冊

司馬神明前
和泉屋市兵衛梓

稗官の腹裏ゝ木匠ふ比をれが初編ゟ自作物ハ新造家ふ葺く嗣作物ハ古舎の修補其故を奈といふふ更地ゟ起立ふハ画畫ふならふく此所ゞ賓館彼所ゞ庫屋と後編の條ゟ發端ゟら仕組べき

神宮文庫

是書ハ既十一輯まで他人の編集拙手ふ成るとぞ也

蔵書印

若ふ請還ふ胸中を割普請大蛇丸といふ刃を造添の釘始

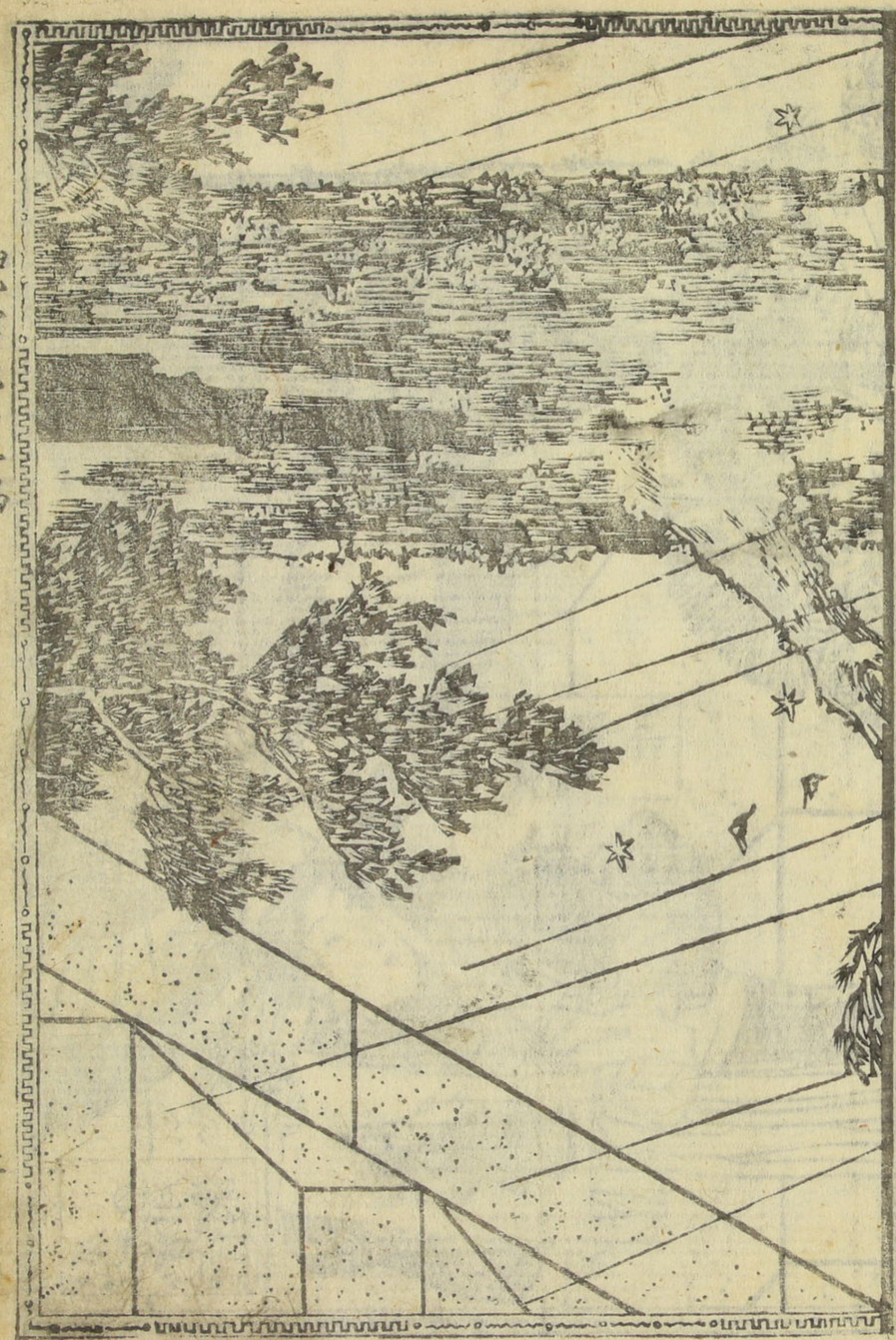
蔵書印

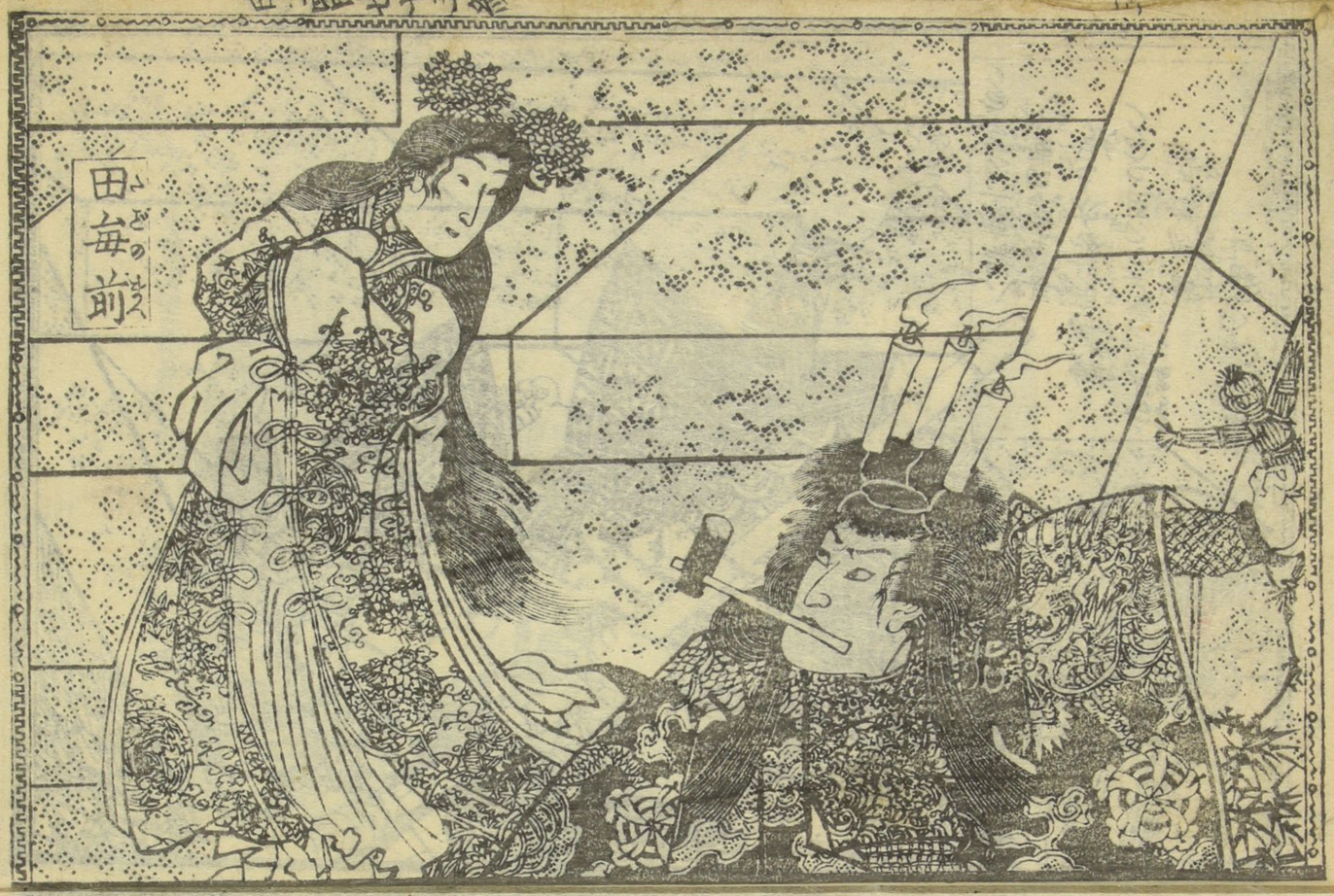
明治維新
神宮文庫

復墨東行西行紙ゝ建ぶけ廿三編簪の檢度ふ並ゝ見る連鼓飆ふ因る也ゞ擬子透の模様ふあるべき裏冨士退治の意匠ゟ成るかゟぞゟと匿々作種書を集んゟ

嘉永癸丑陬月

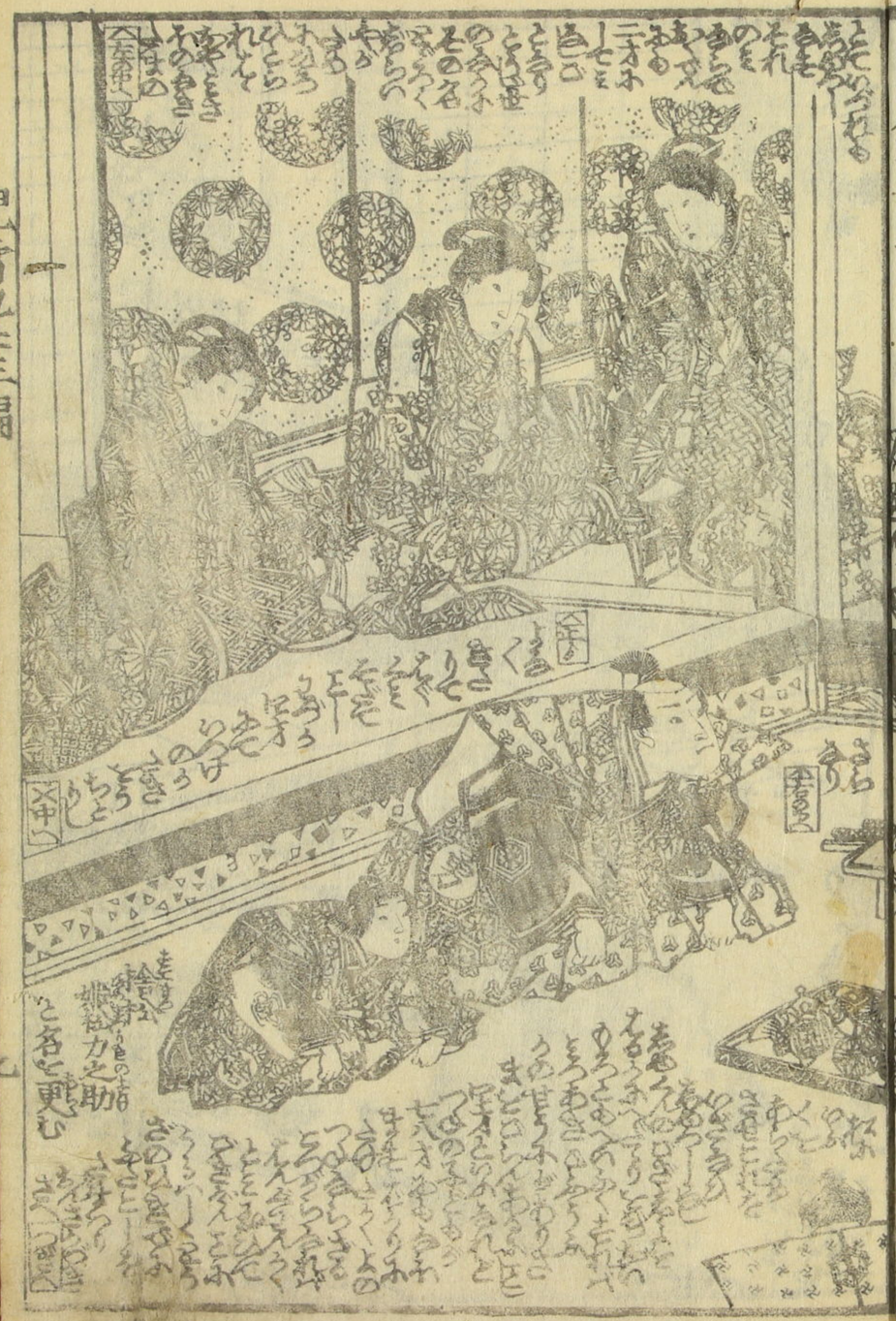
柳下亭種員



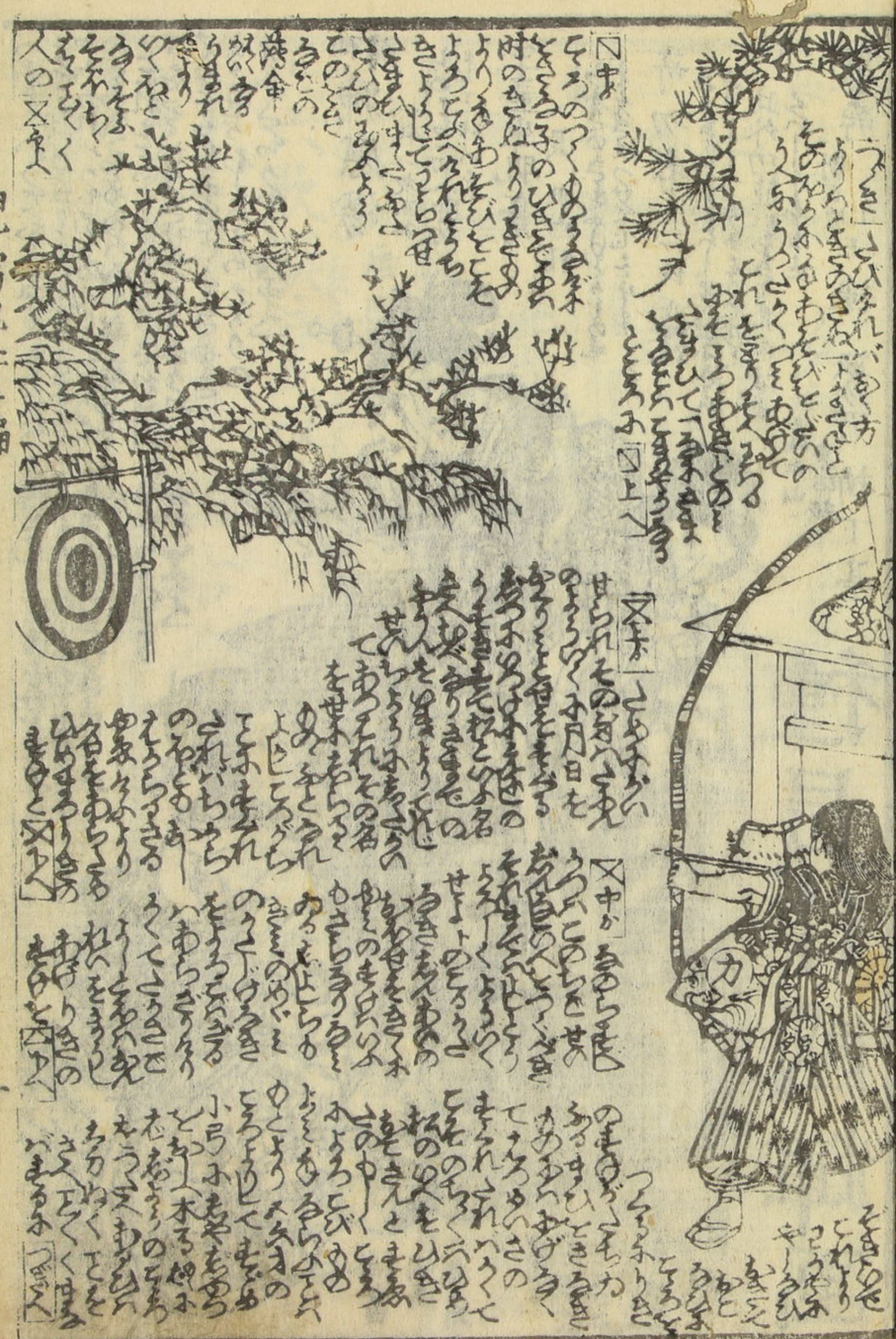

田毎の前

賊首
大蛇丸

つゞき
三の巻へつゞく
二の巻へつゞき
つゞき



高砂義住
加之助が
武の道



仙傳神應湯
一包一匁五分
ちのみ一切ゑ即切
もちろん外のもの

玉壺生肌膏
一貝 代六孔
ちぶさのきれやけとうるのもの
ゑもきれつけてもをやまず

奇功帝 一枚 代四孔
きりきずまたはしもやけに用ゆ
此外功能おもきもの包紙に
しるしあるもの

製薬所 新吉原 玉樓 取次所 柳下亭 真土山 東石坂下

種員作國輝画

浄書 司馬青洲

安政四丁巳春
發行
日錄記

女郎花五色石臺 八編 九編 柳下亭種員作 一筆齋國盛画

新編金瓶梅 初編ゟ十編ゟ大尾 曲亭馬琴作 一陽齋豊國画

黄金水大尽盃 五編 六編 出板 為永春水作 歌川國貞画

一猛齋芳幾画
六六歌撰詠色双六
三十ろくくらせん
きのとしの仕立それくのあらかりて
そのけしきをうたへば初夫の
ひるまふ面白よろこき双六

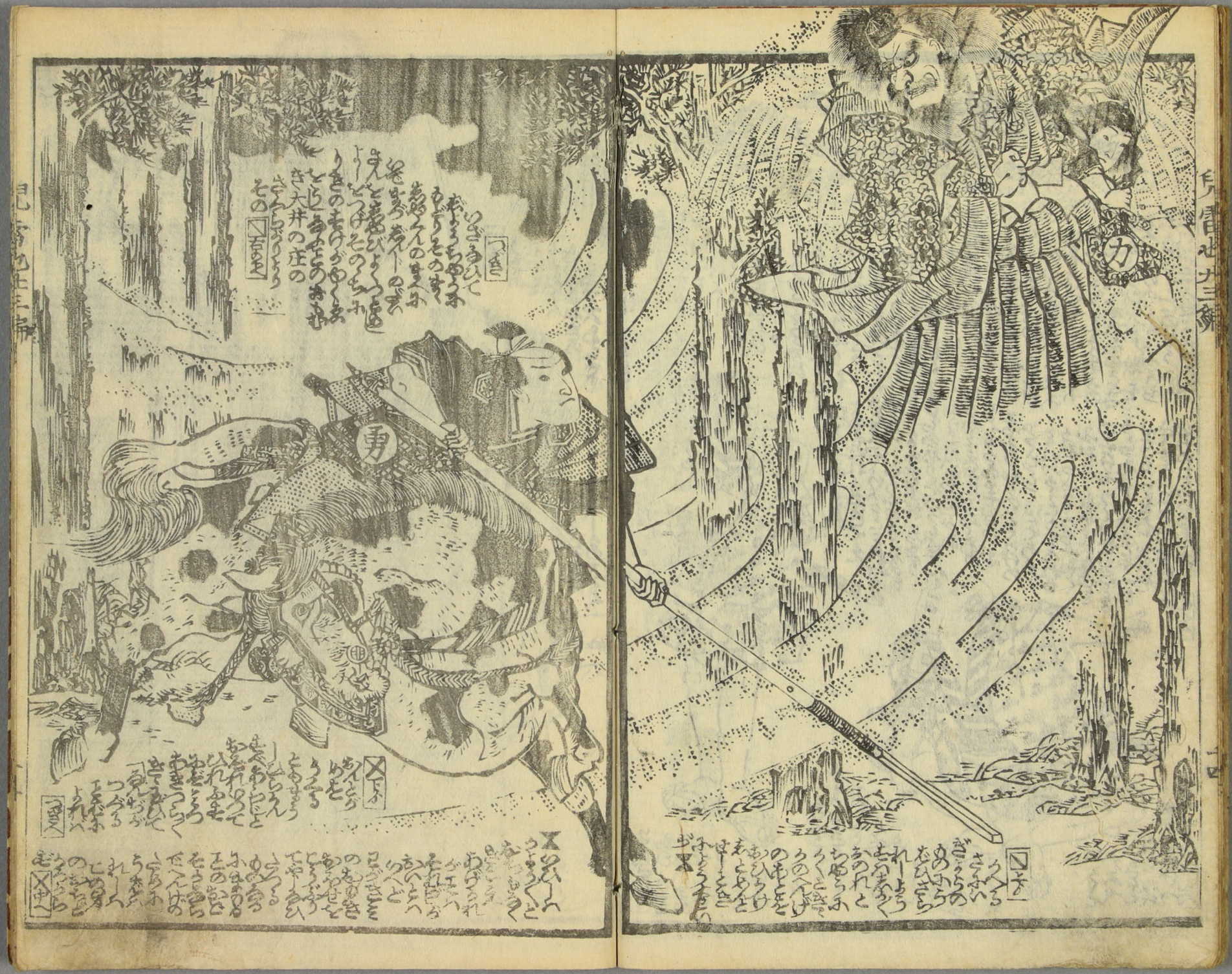
小倉百人一首姫文庫 極彩色 小本一冊

古今俳人百撰 中本 荒木田久老 一冊

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

兒雷也豪傑譚

第廿三編


力
勇

作者 一休草紙 五ノ六ノ
女郎花五色石臺 六ノ七ノ
黄金水大尽盃 初ノ二ノ
照手松操月摩色 は
いづれも引つゞき出ぞん仕る
はずゆへなり

安政三丙辰新板目録

假名反古 一休草紙 柳下亭種員作 七編 八編 九編 出板
一雄齋國輝画

同作 女郎花五色石臺 七編 八編 九編
國盛画

踊形容花競 編者 柳水亭種清 画工 一陽齋豊國
初編より十編まで當年出板

さうゝゝ豊國が画ける多くの錦画を秘清がうつとりとしたる頃の黙表紙に似よりの品のそれるゝて三都のうちのあづま錦画ぐみのようあゝ高評をうの八文舎をあくびりのかぶり形容初こうら時なもきで追ゝ出板仕るるぬりとあるの程希上まるい 板元敬白

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛版